

ゆうこみゆき。



# なるほどアイヌ文化トーク ソッコ de ソッコ

アイヌ文化にどっぷり浸って生きてきた  
本田優子(札幌大学副学長)と  
村木美幸(アイヌ民族博物館専務理事)が、  
その魅力をソッコ(=お便り)形式で語り合います。



今月のテーマ **ウウエポタラ(おまじない)**

タクッペカシク  
(ヤ4ボウズモ  
叩き祓う)



イラスト/安田千夏

子供が転んだときなどに「ちちんぷいぷい、痛い痛い、痛い痛い、飛んでけー」っておまじないを唱えたら泣きやんだって経験ってありませんか？恋愛成就とか、おまじないって何となくプラスのイメージでありますよね。アイヌ語でおまじないを「ウウエポタラ」といいますが、同じまじないでも、病魔などの魔ものを祓うというときに使われることが多いの。

悪いものにとり憑かれたらウウエポタラしたって話はたくさんあって、白老では、病魔を祓ったり精神の悪い神、ウエンカムイに憑かれたときには、フッサフッサと強く息を吹きかけながらエゾニワトコやヤチイチゴの木、ヨモギなどでつくったタクサ(手束)で、頭から足元に向かってカシク(叩きながら祓い清める)したんだって。祭壇の神の前でお願いして、それでも足りなければ強い使所の神の力もかりてウウエポタラしたもんだって。平取ではタクッペ(ヤチボウス)がピョンピョン跳ねているのを見ただけでカシクされたって話があるの。タクッペは湿地の化けものの家と考えられていて、それが跳ねまわることとはとても恐ろしいことなんだって。そのタクッペに見られただけで命に関わるんでもないことになるって信じられてたの。

アイヌのおまじないは超自然的な力への対抗策なんだよね。



ウウエポタラについては、アイヌ社会でキリスト教を布教していた宣教師のバチエラさん(1944)や、お医者様として二風谷のアイヌの人たちに献身的な医療活動をしていたマンローさん(1942)も、かなり記録を残しているよね。たとえば、誰かが精神に異常をきたして踊り狂ったりすると、アイヌの人たちは「パウチ(人を狂わせる悪神淫魔)がとり憑いた」って言うって、祓い落とすための一連の儀式を行ったの。とりわけ印象的なのは、カヤ束にオオイタドリを付け病人をくぐらせるところ。一つ通り抜けるたびに草木の束を持った二人の女性が患者の体をバシバシ6回叩く。それを繰り返した後、今度は川岸でまた二人の女性が、水に浸した草の束で患者を叩くの。火の神と水の神の力で病人を正気に戻すらしいんだけど、叩き方はハンパない。マンローさんはその記録映像を残しています。

こんなふうにアイヌの人たちは様々なおまじないをしていたみたいだけど、バチエラさんはこんな話も紹介してるの。腫れ物が治らなくて困っていたら、お見舞いに来てくれたアイヌが、「腫れ物が出来るのは次の年の畑の豊作の前ぶれなんだから、それを楽しみに我慢した方がいい」って。なんだかほんわりして好きです。



- 本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学副学長。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
- 村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族博物館専務理事。先住民アイヌの一員として文化継承活動に努める。
- 安田千夏(やすだちか):神戸市生まれ。アイヌ民族博物館学芸課。日本口承文芸学会会員。趣味が高じて本連載の挿絵を担当。